



民法正則議員

Q 通学路の整備は

A 安全性の高い通学路としていきたい。(森本建設部長)



▲利用を計画している町道大畝線

Q 幅員1.5m程度で車両通行困難な町道大畝線の利用を事業実施に向け計画してきた。
寺堤池西側には、町道沿いに倉庫が建っており、底地は国有地のため管理者と協議を続けた結果、立ち退きの同意を得るとともに、土地は国から町へ無償譲渡申請中である。
新年度において、この場所を歩道及び溜まり場として整備を行い、町道大畝線に接続する安全性の高い通学路としていきたい。

Q 出来庭地区の通学路は、歩道が狭く平坦性にも欠けるため、熊野中学校の自転車通学の生徒は、車道を走行しており非常に危険である。
寺堤池(石風呂池)西側から熊野北農道入口までの町道の利用は可能か。

A 道垣内交差点から馬橋までの町道城上垣内線については、道垣内交差点から町有地までの間は歩道を設置し、歩道が設置できない箇所は、路肩部分をカラー舗装にする計画である。
また、馬橋交差点隅切り改良工事を今月中に完了できるように準備を進めている。

Q 道垣内交差点改良工事に伴い、馬橋までの未改良区間についてどの様に整備するか。
また、馬橋手前の交差点改良の進捗状況は。

A この道路については、熊野中学校からも整備の要望を受けており、整備が完了次第、通学指導を徹底すると聞いている。

Q 利用可能な場合は、自転車通学の生徒への周知方法は。

山野千佳子議員

Q 県道矢野安浦線の改良は

A 町内の交通の流れを注視し、県へ働きかけていく。(森本建設部長)



▲開通した熊野黒瀬トンネル

Q 熊野黒瀬トンネルの開通により、東広島市黒瀬町方面から広島市等へ向かう県道矢野安浦線は、今まで以上に通過交通車両の増加が懸念される。
このため、県へ引き続き県道矢野安浦線の道路整備の推進を強く要望していく。
具体的には、現在事業中の道垣内交差点の改良及び川角から呉地までのバイパスの早期整備である。
この内、バイパス整備については、相当の期間を要することが考えられるため、当面の対応としては、龍王峠付近で9%ある急勾配を改良するよう県へ働きかけていく。

Q 熊野黒瀬トンネルの開通により、これまで以上に交通量が増加すると思うが、阿戸分かれ交差点からトンネルまでの道路拡幅、高低差の改良は可能か。



沖田ゆかり議員

Q 生活保護受給者に対する自立支援は

A 制度活用に向けたケースワークを丁寧に行っていききたい。(三村町長・清代民生部長)

Q 現在の制度では、生活保護受給中に働いて収入を得ると、保護費が減額されるが、創設される「就労自立給付金」制度は、保護受給者の働く意欲と自立に向けた道筋を作っていくようにするもので、毎月の就労収入の一部を積み立て、保護脱却時に一時金として支給するものである。
本町としては、本年7月からの施行に向け、制度活用に向けたケースワークを丁寧に行っていききたい。

Q 昨年12月に成立した「改正生活保護法」では、受給者が働いて得た収入の一部を積み立て、保護が終了した際に生活費として支給する給付金が新設されたが、町としての具体的な取り組みは。

Q 生活困窮者への支援は

沖田ゆかり議員

A 福祉事務所に相談窓口を設置し対応する。(三村町長・清代民生部長)

Q 本町では、これまででも福祉事務所で、生活保護の申請とともに生活困窮者の相談に応じている。
平成27年4月の「生活困窮者自立支援法」の施行後も、福祉事務所に相談窓口を設置し対応していく。
支援計画等の具体的な内容については、現在国において検討されており、町としては、国や県からの通知等に留意し遺漏のないよう準備を進めていきたい。

Q 「生活困窮者自立支援法」では、自治体に総合的な相談窓口の設置と、困窮者ごとの支援計画の策定が義務付けられるが、町の対応と今後の対策は。

Q 今後の道路整備方針を問う

A 道路の計画的な整備と適正な維持管理に努める。(三村町長・森本建設部長)

Q 現在、県道矢野安浦線では、道垣内交差点の改良及び川角から呉地までのバイパスの整備が進められており、これらについては、引き続き事業の促進を県に要望する。
また、県道を補完する主要町道として、昨年12月末に、団地地区と出来庭地区を結ぶ町道出来庭川角中央線を供用開始し、県道交通の緩和に一定の効果を見せている。
今後、この路線の延伸、及びこの路線に接続する町道呉出来線の拡幅等を検討する。

Q 3月24日に熊野黒瀬トンネルが開通する。これにより県道矢野安浦線の交通量の増加が予測される。
朝夕の渋滞を緩和するために、町内の道路整備が急務であると思うが、今後の町の方針は。

藤本哲智議員